

日本哲学会林基金若手研究者研究助成
成果報告書

フィヒテにおける「障害」概念の再検討

尾崎賛美

本研究では、ヨハン・ゴットリープ・フィヒテ(1762-1814)が『全知識学の基礎』(1794/95、以下『基礎』と略記)で論じた、「障害 Anstoß」概念の内実とその意義とを検討した。この「障害」概念についてはすでに、一方では、「自我 das Ich」の、さらに先へと向かって努力する活動性に対し生じる、いわば〈妨げ〉の側面を、他方では、自我を自限局、ないし自己規定的な活動へと向かわす、いわば〈促し〉の側面をそなえることが指摘されてきた。しかしながら、「障害」概念が自我に対し、「自己自身を限局せよ」という「課題 Aufgabe」をもたらすものとして論じられる点については、主題的に検討されることがほとんどなかった。というのも、従来の研究では、「障害」という術語の使用における歴史的背景の分析を通じて、「障害」概念のそなえる二側面性が論じられてきたからである。それに対し、報告者は、この概念のそなえる二側面性は、むしろ上述の「課題」における二側面性に基づくものであると解釈した。そこで報告者は、「障害」概念と「課題」との連関に着目し、この「課題」の内容と役割とを明らかにすることを通して、「障害」概念が『基礎』においてもつ意義を考察した。

まず、「障害」のそなえる第一の側面についてであるが、そもそも『基礎』において「障害」は、表象一般が我々に対して生起するという事態を説明するために導出される。我々の経験的意識一般は、自我における実在性(活動性)が、部分的に制限されるという構造から説明される。このような、何らかの対象についての意識として、客観的な要素を含んだ経験的意識が成立するためには、「障害が自我に対し現前しさえすればよい」とフィヒテは論じる(vgl. GAI/2, 354f.)。しかし、その一方でフィヒテは、「障害は自我を、能動的に限局するわけではなく、自我に対し、自己自身を限局せよという課題をもたらすであろう」(GAI/2, 355)とも語る。ここで留意されるべき点は、「障害」という契機が論じられるためには、当の「障害」が生起するところの、自我のさらに先へと向かって努力する活動性が、論理上、「障害」に先立つかたちで前提されなければならない点、また、「障害」により自我の活動性が阻止されるという事態を、たとえば、物理的運動に対する妨害のごとく解釈することはできない点である。後者については、経験的意識一般の可能性の説明根拠として導出される自我(絶対我)に対し、いかなる外部からの制限をもけって被り得ない、無限性が帰せられる点と連関する。しかし、フィヒテは上述の通り、経験的意識一般の成立を自我の活動性の部分的な制限という構造から説明しようとする。報告者は、こうした一見矛盾すると思われる事態を解決するためにこそ、自我は自己自身を自らで限局しなければならず、さらに、「障害」が自我に対し、あくまでも「自己限局せよ」という課題を課す契機としてのみ

想定されなければならないことを明らかにした。

次に、「障害」における第二の側面、すなわち、自我を自己制限ないし自己規定的な活動へと〈促す〉側面についてであるが、上述の通り、「障害」は、経験的意識一般が可能となるために想定される契機である。それは、自我（絶対我）の本性としての無限性を廃棄し、むしろ自我の有限性を示す。もちろん、自我が文字通り「障害」によって制限されるのであれば、そもそも自我に無限性を帰す余地はない。しかし、経験的意識が総じて現に成立し、またそのための説明として「障害」の生起が想定されるならば、自我の無限性はあくまでも確保されなければならない。そして、この確保は、他でもない自我自身が自らを限局するという仕方でのみ可能であり、自らを有限性の内に制限し得るという点に、自我の無限性は存する。ただし、自我は、「かくある」として理論的に捉えられた自らの制限性の内に尽きるのではなく、自我はさらに、自らを「かくあるべき」方向へと実践的に規定することで、こうした制限性を克服しようと努力することができる。そして、自らの制限性を、他から押し付けられるままにではなく、自己自身で反省する点に、こうした制限性を克服する可能性が保持される。自らが被る制限を正しく捉えることのできるものだけが、こうした制限をしかるべき仕方で克服することができるからである。

以上より、「障害」とは、一面では、経験的意識一般の可能性の説明において、自我の有限性を含意するものであるが、他面では、こうした有限性の中に存する無限性に、すなわち、あるべき自己を絶えず目指して努力し得る我々の可能性を示唆するものでもある。本研究は最終的に、ここにこそ、「自己限局せよ」という課題をもたらす「障害」のそなえる意義があるという結論に至った。